

テーマ：直前期の壁を破る！過去問の結果から最短で学力を上げる戦略

開催日：2025年10月15日（保護者様向けセミナーより）

この資料は、中学受験直前期（秋以降）の過去問対策に関する保護者様の共通の課題と、プロコーチ・専門家による具体的なアドバイスをまとめたものです。

1. 参加者から共有された主な課題

- **塾のペースと志望校対策のバランス**: 塾が過去問対策のペースを管理しており、第一志望校の対策が遅れている（あるいは家での実施を止められている）。塾のペースと第一志望校対策をどのように併用すべきか。
- **優先順位の付け方**: 過去問に取り組み始めたものの、苦手克服や解き直しなど「やることが多すぎる」。限られた時間の中で、何から手を付けるべきか。
- **過去問の進捗遅れ**: 塾の推奨ペース（例：3週間に1回提出）よりも過去問の進捗が遅れている。
- **入試説明会での確認事項**: 来月、複数の学校の説明会に参加予定だが、保護者として聞いておくべき重要ポイントは何か。

2. プロコーチ・専門家によるアドバイスと戦略

(1) 過去問への向き合い方と目標設定

戦略	詳細
過去問の役割の再定義	9月～11月頃 の過去問は、 学力を上げるための道具 というよりも、 現在の学力と志望校の要求レベルとの「差分」（かい離）を見るためのもの 。必要な対策は、過去問そのものではなく、別の教材で行う。
目標点の設定	合格最低点ではなく、 四教科合計の合格最低点を基準 とし、安全をみて 7割～8割程度の目標点 を定める。各教科ごとの合格最低点はあまり気にしなくてよい。
解くべき問題の選別	合格点に達するために どの問題を正解すべきか（優先順位）を確認 する。大問の前半にある 簡単な計算問題や一行問題を確実にとる戦略 が極めて重要となる。

(2) 直前期の学力向上戦略（優先順位と苦手の扱い）

戦略	詳細
短期目標の設定	「やることが多い」状態を脱するため、 今一番近い合格点にいる学校から順に目標（ミッション）を設定 する（例：「3週間でこの学校の合格点まで持っていく」）。これにより、やるべきことに意味が生まれ、優先順位がつけやすくなる。
戦略転換	9月以降は、夏休み頃までの基礎固めから、 より短期間で点数が上がり そんな「伸びしろ」を見つけて攻略していく戦略に転換する。
苦手の扱い	散々やったのに点が取れない苦手分野は、一旦 後回し にした方が良い場合がある。他の分野で点数を伸ばした後、改めて取り組むと克服できることがある。
「捨て問」の見極め	誰も解けないような難しい問題（1～2問）は「捨て問」として扱い、解き直しの際も時間をかけすぎず、 解説を読む程度 で良い。
解き直しの効率化	解き直しは、 合格点到達に必要な問題（7割～8割までの問題）に絞り 、解説をしっかりと読んで行う。全てを解き直す必要はない。

(3) 塾との連携と心構え

- **塾のペースの活用**: 塾の指導方針（実力相応の学校から順に合格点を取りながらステップアップする）に乗っかりつつ、早めに合格点に到達して第一志望校対策に進めるよう努力する。
- **第一志望校対策の先行**: 塾の指示と関係なく、親が学校の**出題傾向を分析**し、必要な対策（例：特定の記述問題、出題形式に慣れるなど）を日々の学習に組み込むのは有効である。
- **本番慣れ**: 模擬試験（模試）の結果は今ほぼ関係なく、**本番慣れや時間配分の練習**のために月1回程度は受けるべき。
- **自信を持たせる**: 受験が近づくにつれて子どもは不安になるため、一つひとつの課題をクリアし、「これはできた」と**これまでよりも強く印象づけながら、自信を持たせて前進させる**ことが非常に大切である。

3. 次のステップ

- **過去問の結果共有:** 過去問を解いた際は、点数だけでなく、**問題用紙と解答用紙の写真をコーチに共有**してください。これにより、具体的な「伸びしろ」の分析と、短期ミッションの策定がスムーズに行えます。
- **残り時間の意識:** 受験日までの日数を「あと何週間」で数えるなど、子どもが期間の短さをより印象づけられるように工夫し、集中力を高めましょう。